

ガバナー月信



居島大彦

月信3月号

- ① ガバナーメッセージ
- ② 国際協議会報告・第2回地区運営会議
- ③ 第2回米山記念奨学委員長セミナー
- ④ 第1・2回青少年交換派遣学生オリエンテーション
- ⑤ 能登半島地震の対応
- ⑥ 地区研修委員会
- ⑦ 財団委員会通信
- ⑧ 地区主要行事予定(2月・3月)
- ⑨ 新入会員紹介・訃報
- ⑩ コーディネーターニュース
- ⑪ ハイライトよねやま

国際ロータリー第2560地区
2023-24年度

米山ガバナー事務所

〒951-8061 新潟市中央区西堀通七番町1574
ホテルイタリア軒B1

TEL: 025-222-2561 FAX: 025-222-2565



ガバナーメッセージ

2023-24 年度 ガバナー

米山 忠俊 (三条北 RC)

一雨ごとに寒さも緩み、希望溢れる季節を迎えています。日本では、3月は別れの季節だとも言われています。別れが訪れることは時折辛いものですが、新たな出会いや未来への希望を胸に、心豊かに歩んでいきたいものです。

2月10日に青少年交換委員会第1回派遣学生オリエンテーションが行われました。本会では、必要な知識の説明や危機管理についての説明のほかに、派遣候補生本人の話などを聞くことができました。特に、派遣候補生皆さんの抱負とプレゼンテーションを聞いていると、若いエネルギーにあふれた思いがとてもよく伝わってきて、私まではつらつとした気持ちになることができました。委員会の皆さんそして関係者の皆さん、延期したうえでのオリエンテーションの開催、大変ご苦労様でした。

「天は人の上に人を作らず、人の下に人を作らず」で有名な福沢諭吉は「世の中で一番みじめなことは教養がないこと。一番醜いことは他人の生活をうらやむこと。」という言葉を残しています。一番みじめというのも極端だとは思いますが、ここでいう教養というのはテストの点数が高いとか、いい大学に行ったとか、知識の量が多いとか、そんなことではなく、「考える」習慣を持つことだと私は思います。考えることは、創造性を刺激し、問題を解決するためのアイデアを生み出すだけでなく、自己理解や成長にもつながります。新しい視点を見つけたり、深く掘り下げたりすることで、私たちは世界をより良く理解できるのです。「天は人の上に人を作らず～」というのも、人間の平等を説いていると思われがちですが、本当に言いたかったことは単純に平等なのではなく、人間の貴賤とはその人の働き次第で決まるということだそうです。今自分ができることは何か、何をしたらもっと世界が良くなるのか、学生たちにはもちろん、ロータリアンである我々も常に考えていきたいものです。



国際協議会報告会・ 第2回地区運営会議開催

ガバナーエレクト
南雲 博文 (長岡 RC)

1月27日(土)、国際協議会参加の報告会と第2回地区運営会議、併せて地区チーム研修セミナーが62名の参加で、長岡にて行われました。

国際協議会は1月6日から1月13日で米国、フロリダ州オーランドで、約1,100名の参加者で開催されました。メインイベントは、RI会長エレクト、ステファニー A. アーチック女史の、2024-25年度のRIテーマの発表と講演です。テーマを「ロータリーのマジック」とされました。マジックとはできないと思っていることができることで、それは変化にも通じます。プロジェクトが終わるたびに、寄付するたびに、新会員を迎えるたびにマジックを生み出せると言われました。私もまさにマジックで変化させる時期に来ていると思います。日本のガバナーエレクトは34名いますが、そのうち4名が女性ガバナーエレクトです。変化していますね!

第2回の地区運営会議も続けて開催されました。私の年度の地区テーマと運営方針と今後の主な行事が内容です。地区テーマは「ロータリーはステージ・みんなが輝く!」です。

各クラブ間が更に連携することで、今までにやれなかったことできるのではないかと期待しております。また今年度から、地区ラーニング委員会を立ち上げ、すでにガバナー補佐、クラブ会長幹事研修を行い、今回初めて地区チーム研修セミナーも開催していただきました。ロータリーに対する認識が向上しており、更に活性化に地区運営にマジックが起きると大いに期待しているところでございます。

そのあと、参加者全員の懇親会が開催されました、いよいよPETS、地区研修・協議会そして7月からの本番へと気持ちを全員で確認させていただきました。大変ありがとうございました。





第2回米山記念奨学委員長 セミナー報告

米山記念奨学委員会
寄付増進委員会
委員

水野 義彦 (雪国魚沼 RC)

2月3日(土) ホテルオークラ新潟で行われました国際ロータリー第2560地区2023-24年度米山記念奨学委員長セミナーについてご報告いたします。

当日は、第2560地区の44クラブの米山記念奨学委員長、地区の米山記念奨学委員を合わせて60名にご参加いただきました。

冒頭で、米山忠俊ガバナーと米山光紀寄付増進委員長よりご挨拶いただいて、セミナーに入りました。

最初に、現在第2560地区米山奨学生のラフマン・エムディミザヌルさん(バングラデシュ・雪国魚沼 RC・国際大学修士1年)とレジナ・アンチラナタシャさん(インドネシア・新発田 RC・新潟食料農業大学修士1年)のお二人から母国紹介、現在の研究、将来の夢、ロータリークラブへの感謝の気持ちなどについて語って頂きました。

休憩時間には米山学友の活動を紹介するDVDを視聴し、その後に第2560地区米山学友会会長のバウベクズ・ジャンサヤさん(カザフスタン・新潟中央 RC・事業創造大学院大学卒)より、「米山学友会の活動について」講演をいただきました。同氏は2018年～2020年の2年間米山奨学生として新潟に学び、新潟を愛するが故に新潟市の農業機械販売会社の米部門で輸出業務に従事。自分の経験と学びを学友に広げるため学友会会長として奨学生に楽しい学生生活を送ってもらうサポートをしながら、ロータリアンとの繋がりを深めて積極的に活動している日々を伝えて頂きました。

その後は、各委員会より「米山学友会とロータリークラブのつながりについて(渡辺学友委員長)」、「米山奨学事業の成果と寄付増進について(米山寄付増進委員長)」、「選考会の報告と、新規カウンセラーの選任について(小林選考委員長)」について発表頂きました。

最後に、新保清久(公財)ロータリー米山記念奨学会理事・パストガバナーより関係あるすべての方の尽力に対する感謝の意と、国際理解・親善・平和を推進する日本独自の米山奨学事業に対して、変わらぬご支援へのお願いをいただきセミナーを締めました。

今回のセミナーを通じ、改めて感じたのは本奨学生制度によって奨学生が日本への愛を深め、それを母国との関係性において前向きな質的向上を図り、また奨学会の後進への支援へとつながる長い長

い好循環を生んでいる事です。事業発足の原点『今後、日本の生きる道は平和しかない。それをアジアに、そして世界に理解してもらうためには、一人でも多くの留学生を迎え入れ、平和を求める日本人と出会い、信頼関係を築くこと。それこそが、日本のロータリーに最もふさわしい国際奉仕事業ではないか』を改めて各自が深く自覚する日となりました。その気持ちを各クラブに持ち帰って伝播し、その輪が広がっていく事への思いを強くいたしました。当委員会としても奨学会から学友会へのパイプの強化と、更なる奨学生・学友会の活性化に努めて参ります。今後とも会員の皆様の米山奨学事業に対するご支援、ご協力、特に絶大なる寄付の拡大を何卒宜しくお願いいたします。





第1、2回 交換留学生オリエンテーション開催

青少年交換委員会
副委員長

神谷 勇一 (糸魚川中央 RC)

2024-25年度青少年交換プログラムに応募した長期派遣学生4名、短期派遣学生3名によるオリエンテーションが2月10日 白根サルナートにて開催されました。

米山ガバナーより激励、石本危機管理委員長より留学に於ける注意事項を説明頂きオリエンテーションがスタートしました。

「ロータリークラブの基本知識」「留学生の心構え」「交換における注意点」などを次回レポート作成を前提に学んでいただき、その後に派遣先で実施するプレゼンテーションの発表に参加者よりアドバイスをいただきブラッシュアップに繋げていただきました。

参加学生は総じて英語能力のレベルが高く今後が楽しみです。

今回は県内から2名のローテックスに参加いただきプレゼンテーション資料の作成、発表での留意点や実際に派遣先で体験したことなどを中心に進行していただきました。

参加した学生にとって年齢も近いローテックスのお話しは、貴重な情報提供であり真摯な態度で臨んでおりました。

今後は4、6月までに2回のオリエンテーションを経てそれぞれの目的地に出発となります。







能登半島地震の発生による RI2560 地区の対応

ロータリー地域協働ネットワークセンター
センター長

清水 信博 (高田東 RC)

1月1日に発生した能登半島地震は、二ヶ月が経過しましたが、避難所で生活している方々も多数おられ、復興の道はこれからです。改めまして、被災された方々にお見舞いを申し上げますと共に、一刻も早い復旧をお祈り申し上げます。

当 2560 地区としての対応を下記に記載し、今後の災害対応の参考になればと考えております。

① 経過

2024年1月1日

16:10 発災

16:14 鈴木顧問→清水センター長へ

「何が起きるかわからない。今後、待機するように。」指示を受ける。

清水センター長→2名の副センター長へ 同上の趣旨伝える。

18:19 「センターが、各ガバナー補佐と連絡を取り合い被害状況確認中していく。」石黒地区幹事へ報告

18:21 米山ガバナー→清水センター長へ 「今後いろいろあると思うが、対応するように。」指示を受ける。

18:42 前川第7分区ガバナー補佐→清水センター長へ

「第7分区内では、地区より支援を受ける程の甚大な被害は、現在のところ確認されていない。」と報告を受ける。

2024年1月2日

8:51 田村第2分区ガバナー補佐→清水センター長へ

「分区内では、地区より支援を受ける程の甚大な被害報告は入っていない。」報告を受ける。

9:05 長谷川第1分区ガバナー補佐→清水センター長へ

「分区内では、地区より支援を受ける程の甚大な被害報告は入っていない。」報告を受ける。

2024年1月3日

9:58 石黒地区幹事→清水センター長へ

「米山ガバナーが、地区内被害状況を視察したい意向有り。」と報告を受ける。

10:24 石黒地区幹事→清水センター長

「災害対策本部の設置やガバナーの視察は必要か？」問合せあり。「現在のところ、不要。」と回答。

10:57 清水センター長→山田第3分区ガバナー補佐

「分区内では、地区より支援受ける程の甚大な被害報告は入っていない。」報告を受ける。

11:03 清水センター長→原第5分区ガバナー補佐へ

「分区内確認中。どこまで報告すればよいか？」報告を受ける。ロータリー関係者のみの被害報告をお願いしたいと回答。

11:21 清水センター長→小出第4分区ガバナー補佐へ

「分区内では、地区より支援受ける程の甚大な被害報告は入っていない。」報告を受ける。

11:23 清水センター長→庭野第6分区ガバナー補佐へ

「分区内では、地区より支援受ける程の甚大な被害報告は入っていない。」報告を受ける。

11:24 清水センター長→米山ガバナーへ

「全てのガバナー補佐と確認がとれ、地区より支援受ける程の甚大な被害やメンバー関係者での甚大な被害報告は無い。」と報告

11:29 清水センター長→鈴木顧問、大宮、小川副センター長へ

「全分区のガバナー補佐と確認取れ、地区より支援受ける程の甚大な被害やメンバー関係者での被害報告は無い。」と報告

2024年1月4日

8:30頃 米山ガバナー→清水センター長へ

「新潟市西区に被害状況の確認を行うため、向かっている。」報告を受ける。

2024年1月7日

9:02 鈴木顧問→清水センター長へ

「2560地区としての支援体制構築の必要性について協議が必要。何とかして、先方(2610地区)と連絡を取る必要あり。センターとしての対応策の協議の必要性あり。その協議の後、米山ガバナーに対し、進言する必要がある。」それぞれの項目に対し指示あり、センターとして検討に入る。

10:23 清水センター長→第2610地区あてメール送付。2560地区は、支援の用意がある事を伝える。

2024年1月9日

11:30頃 清水センター長→2610地区ガバナー、ガバナーエレクト合同事務所。宮本地区幹事と連絡つく。

「2610地区内で、災害対策（支援）本部を立ち上げた。本部長は、宮本地区幹事。被害状況は、全く把握できていない。報道情報のみ。被災地、能登地方へは道路が寸断されて行く事が不可能。地区本部がある金沢市は被害なし。本日、地区災害対策本部会議開催予定。近隣地区や連絡を頂いた地区へは、これから随時連絡していく。」との報告を受ける。

2024年1月15日

11:20頃 清水センター長→第2610地区宮本地区幹事

「前日（14日）にやっと、被災エリアのガバナー補佐と連絡取れた。まだまだ、被災状況は把握出来ない状況である。」と状況を聞く。中越地震時の当地区が対応したDVDが必要か、お聞きしたところ、ぜひ見たいとの事。

② ガバナー、ガバナーエレクト 緊急会議開催について

開催日：2024年1月18日 11:30～13:00

会場：長岡市 まちなかキャンパス長岡

参加者：米山ガバナー、石黒地区幹事、南雲ガバナーエレクト、阿部地区幹、鈴木顧問、清水センター長、小川副センター長

協議内容： ① 当2560地区の被害状況の確認
② 2610地区の被害状況の把握
③ 当2560地区が2610地区に対する災害支援への方針協議

① 当2560地区の被害状況の確認

- ・各ガバナー補佐に確認済み。地区に支援依頼する程の甚大な被害はなし。
- ・地区内被災地域あるいは、新潟県などの行政等に対する支援（支援金等）が必要か否か。
⇒ もう少し状況を確認する。後日、改めて、必要であれば協議する。
- ・当第2560地区に対して、支援する用意がある他地区【第2680地区（兵庫）・第2790地区（千葉）】からの問い合わせに対しての対応を協議。⇒支援は、最も甚大な被害を出した2610地区に対して行うよう、当地区としては遠慮する方向で連絡する。（2024年1月19日付で支援依頼に対する礼状送付）

② 2610地区の被害状況の把握

- ・清水センター長より、2610地区のやり取りを説明。⇒現在のところ、2610地区事務所【災害対策（支援）本部】内でも、ほとんど、被害状況が、把握されていない。よって、支援依頼の具体的な内容は未定。

③ 当 2560 地区が 2610 地区に対する災害支援への方針協議

1. 支援金 : 第 2610 地区 原ガバナーより全地区に対して支援金のお願い配信 (2024 年 1 月 9 日付)

当 2560 地区より地区内各クラブに対し、支援金のお願い文章配信 (差出人 ガバナー・地区幹事・センター長名連名 2024 年 1 月 10 付) 締切: 2024 年 3 月末

2. 具体的支援策の検討

1 月 16 日に当地区の中越地震における組織や活動内容を詳細に説明した DVD を送付。これを機に、第 2610 地区災害対策 (支援) 本部に対し、依頼があれば、ソフト面【災害対策 (支援) 本部運営や組織作り。行政機関や他団体・災害支援機関等との情報交換の進め方。等のノウハウを中越地震の経験を基に】での支援を進めていく。今後も第 2610 地区との定期的な情報交換を欠かさず行い、情報収集に努め、何かあれば、速やかに関係者 (センター役員、ガバナー、ガバナーエレクト、地区幹事) に報告、協議を行う。

以上





地区チーム研修セミナー開催のご報告

地区研修委員会
委員

早川 滝徳 (三条 RC)

皆様におかれましては、日頃より地区研修委員会の活動にご理解ご協力をいただきまして誠にありがとうございます。

さて、去る1月27日(土)長岡グランドホテルにて、南雲博文ガバナーエレクトの国際協議会報告と第2回地区運営会議に加えて、地区チーム研修セミナーを開催させていただきました。当日は南雲ガバナーエレクトをはじめとした南雲年度地区役員の皆様、また南雲年度ガバナー補佐など総勢51名からご参加いただきました。

始めに佐藤真地区研修委員長より挨拶があり、高橋秀樹地区ラーニングファシリテーターを講師としてガバナー補佐と地区委員会、地区幹事・地区副幹事の皆さんが「地区チーム」であるという説明から研修がスタートしました。



佐藤真研修委員長の挨拶



高橋秀樹地区ラーニングファシリテーター

ガバナーエレクトが国際協議会から帰国されると RI 会長エレクトの年度テーマを諮問委員会に伝えるために帰国報告を行います。例年はそこに「地区チーム」が同席する事で地区チーム研修セミナーとしていました。

しかし本来はガバナーエレクトにより伝えられた RI 会長テーマと年度地区運営方針を受けてガバナーエレクト年度を盛り上げるべく「地区チーム」として自分たちが何をすべきかを考えるために地

区チーム研修セミナーを開催することになっています。

今までとは開催の目的や内容などが変わったことを理解していただくとともに、「地区チーム」のそれぞれの役目、つまりガバナー補佐+地区委員会+地区幹事（地区副幹事）が情報共有し、それぞれの役割を通じガバナーを支えつつ、クラブ支援を行わなければならないということを説明させていただきました。

また地区委員会の役割としては、セミナー開催など従来の活動を充実させる事だけが目的ではなく、地区内 54 クラブの委員会への支援を通して各クラブの奉仕活動を活性化する事も大切であると説明し、加えて地区幹事や地区副幹事がそれをどのようにフォローすべきか説明させていただきました。

過日行われたガバナー補佐セミナーの内容を、今回は地区委員長や地区副幹事の皆様にもご理解いただくことによって、本地区では今まで十分な連携をとらずに行動していた「地区チーム」の本来の姿はガバナー補佐も含めたものであるということも理解していただけたと思います。本地区では今まで「地区チーム」の定義を十分に共有せず、また本来の形で地区チーム研修セミナーを実施していなかったことから「地区チーム」としてのまとまりや活動に関する意識は希薄であり、特にガバナー補佐と地区委員会と関わることはほとんどありませんでした。今回のセミナーを受けて、「地区チーム」が一丸となり第 2560 地区がさらに活性化するよう取り組んでいただきたいと思います。



研修セミナーの様子

地区チーム研修セミナー後に行われた第2回地区運営会議終了後には懇親会も開催され、受講者の皆様へ修了証が授与されました。会場はまさに「地区チーム」の皆様の大切な懇親の場となり様々な交流が深められたと思います。



修了証贈呈



最後に、今回初めての地区チーム研修セミナーでしたが、改めてそれぞれの目的、役割を考えていただく時間となったのではと思います。参加していただいた皆様、本当にありがとうございました。





「世界でよいことをしよう」 財団委員会通信

2023 年度地区補助金プロジェクトも最終報告書が地区事務所に続々寄せられています。次年度に向け各クラブ奉仕委員会の皆さん&財団委員長さんの参考にしていただければ幸いです。

尚プロジェクトの詳細については各クラブにお問い合わせください。

紹介するプロジェクトは次の2クラブです。

- ・豊栄ロータリークラブ
「クラブ活動の地域移行に対する支援」
- ・長岡西ロータリークラブ
「NAGAOKA テニスフェスタ 2023」



地区補助金番号: DG2447744

個別プロジェクト報告書番号: 33

ロータリー財団地区補助金(DG)個別プロジェクト報告書

ロータリークラブ: 豊栄ロータリークラブ

プロジェクト名: クラブ活動の地域移行に対する支援

プロジェクトの概要

1. このプロジェクトで何が、いつ、どこで実施されたかを簡潔に説明してください。

2023年8月 福島潟駅伝競走予選会、10月 区内中学校練習会

2. このプロジェクトの恩恵を受けた人々の数はどのくらいですか。 30名

3. プロジェクトの受益者は誰ですか、またどのような恩恵を受けましたか。プロジェクトはどのような人道的ニーズに応えましたか。

プロジェクトの受益者について

- ・中学生や北区陸協に係るメンバー: 直接的な活動の参加者であり、プロジェクトのリソースやクラブ活動の支援を受けた。
- ・地域コミュニティ: クラブ活動に参加する中学生と地域の協議者間のコミュニティの絆を強化。
- ・学校や教育機関: クラブ活動が地域に移行しても盛んであれば、学校評価や生徒の満足度も向上する可能性がある。

どのような恩恵を受けたか

- ・教育と知識のニーズ: クラブ活動を通して、生徒たちの新しい知識やスキルを学ぶ機会を提供できる。
- ・社会参加のニーズ: 生徒たちが地域の指導者に接することにより社会に参加し、自分たちが声を上げる機会がある。
- ・コミュニティとのつながりのニーズ: 地域コミュニティとの連携を強化し、相互理解と協力の機会を増やします。新潟市北区陸上協会と陸協の練習会に参加した中学生。

4. このプロジェクトに何名のロータリアンが参加しましたか。 12名

5. これらのロータリアンは何を行いましたか。プロジェクトへの財政的支援を除き、その具体例を少なくとも2つ挙げてください。

- ・例会時に目録の贈呈式を行いました。
- ・クラブ活動地域移行に伴う協議(会議)に参加
- ・クラブ活動に必要なと思われる練習器具の選定

6. 協力団体が関与している場合、その団体の役割は何でしたか。

- ・新潟市北区陸上競技協会: クラブ活動地域移行の受け皿の役目として関与の予定
- ・新潟医療福祉大学陸上競技部: 今後大学で行われる予定の合同練習会で指導者として関与

プロジェクト実施写真集



プロジェクトの成果の確認

<プロジェクト内容>

- ・クラブ活動に必要と思われる練習器具、テントを新潟市北区陸上競技協会へ寄贈

<背景>

- ・小中学校のクラブ活動が徐々に地域移行される
- ・野球やサッカーなどのメジャーなスポーツ、柔道剣道など伝統的な武道は受け皿となる団体が多くあり、用具の充実も図られている
- ・陸上競技などはランニングに重きを置かれるも、基礎練習にはそれなりの用具が必要となる

<目的>

- ・協会として財力に乏しく、スポンサー集めのスキルも少ないスポーツへの支援
- ・協会が非営利団体であることに起因して不足する予算への援助
- ・子ども達の競技力を上げるための指導側のハード部分への支援

<主な成果>

- ・小中学校が独自で持っていないラダーや駅伝襷、ハーフドーム(マーカーコーン)で正確な「動き」の練習が可能となる
- ・指導者側もしっかりとした練習用具が揃うことで練習メニューのレパートリーが豊富になる
- ・上記二点が合わさることだけでも競技力の向上が容易に想像可能となる
- ・クラブ活動の地域移行がネガティブな事柄にならないような下準備には一定の効果があった

生徒へアンケートをとったところ、以下の感想が寄せられた。

生徒 A : 新しい練習道具は本当にいいです！例えば、以前よりも効果的にスプリントの練習ができるので、自分のタイムがよくなる気がします。また、みんなで使うことで競争心も湧き、モチベーションが上がりました。これからもこの道具を使って練習したいです。

生徒 B : 初めてのラダー練習でしたが、使ってみるとその効果に驚きました。特に基礎運動の向上に役立つアイテムは、これまでにない感覚でした。コーチの指導もより具体的になり、自分の弱点を克服するためのトレーニングができました。これからもこの練習道具を活かして、成績を伸ばしていきたいです。ありがとうございました。

生徒 C : 新しい練習道具のおかげで、トレーニングがよりバラエティ豊かになった。特にマーカーを使った練習は前よりも目標が分かりやすかったです。来年の大会に向けてみんなと協力して、タイムがのびるように頑張ります。

総括 : 新しい練習道具の導入は成功だったと思います。生徒たちの感想からも分かるように、道具の効果は実感できるものであり、それが個々のモチベーション向上につながっています。競技においては多様性と新しさが重要であり、この道具はその要請に応じてくれました。

今後も継続的に活用して、中学生たちがより高いパフォーマンスを発揮できるようにサポートしていきたいと思います。



地区補助金番号:DG2447744

個別プロジェクト報告書番号:22

ロータリー財団地区補助金(DG)個別プロジェクト報告書

ロータリークラブ:長岡西ロータリークラブ

プロジェクト名:NAGAOKA テニスフェスタ 2023

プロジェクトの概要

1.このプロジェクトで何が、いつ、どこで実施されたかを簡潔に説明してください。

2023年10月28日(土) 午前の部 9:30~12:00 午後の部 13:00~15:30

長岡市ニュータウン運動公園多目的コート

2.このプロジェクトの恩恵を受けた人々の数はどのぐらいですか。 22名(小学生12名 中学生10名)

3.プロジェクトの受益者は誰ですか、またどのような恩恵を受けましたか。プロジェクトはどのような人道的ニーズに応えましたか。 テニス事業に参加した22名(小学生12名及び中学生10名)

4.このプロジェクトに何名のロータリアンが参加しましたか。 10名

5.これらのロータリアンは何を行いましたか。プロジェクトへの財政的支援を除き、その具体例を少なくとも2つ挙げてください。

・NAGAOKA テニスフェスタ 2023における当日の会場設営

・長岡市内のテニスクラブへの参加者募集案内の配布

・会場手配と実施会場における事前打ち合わせ

・テニスコーチとの事前打ち合わせ

6.協力団体が関与している場合、その団体の役割は何でしたか。

(テニスコーチ)岡垣光祐 コーチ、高橋直誉 コーチ、山本卓哉 コーチ

プロジェクト実施写真集





プロジェクトの成果の確認

本事業の目的はテニスの技術の上達ではなく、子供たちに失敗を恐れずチャレンジする気持ちや、自分ならできるという気持ちを更に持ってもらうという事を目的として事業を行いました。

講師としてお越しいただいた岡垣光祐コーチは、この目的に賛同してくださり、事業当日は子供たちとの距離感を縮めていただき、笑顔で接してくださり、時には本気のショットで子供たちを魅了していました。

テニスフェスタは午前と午後、それぞれ2時間半という短い時間でしたが、子供たちの練習している表情はみんな真剣で、笑顔があり真剣な中にも楽しさがあるという様子でした。

参加者の中で、当日、県の強化練習会と本事業の日程が重なってしまい参加できなくなった小学生がいました。事業開始前に30分程アップをする時間があり、その参加できなくなった小学生は、30分の時間を利用し岡垣コーチと少しの時間だけ練習することができました。

帰り際に、その子は涙を流しながら事業に参加したかったといい会場を後にしていきました。このようなエピソードからも岡垣コーチの子供たちに対する影響の大きさを感じることができました。

新潟県の子供たちは、冬場雪に閉ざされ、年間の3～4か月は満足に練習ができないという環境にあり、他県の選手と比べて大変なハンデを抱えています。そんな環境下におかれた中でも、必死に上達しようと毎日頑張っている選手がいます。また岡垣コーチのような選手と練習できるジュニアは、新潟県でも良い成績をおさめた県内のトップジュニアしか機会がありません。大会の実績等は関係なく、どんな選手にもチャンスが平等にある事業とすることができました。

参加してくれたジュニアは、みんな楽しそうで、岡垣コーチからパワーをもらっていました。その岡垣コーチのパワーが子供たちの自信となり、今後の人生にとってプラスとなってくれることは間違いがありません。本事業に参加してくれたジュニアの中から、将来活躍してくれるテニス選手が育ってくれることを祈念しています。

(参考:事業のアンケート内容)

タイムスタンプ	もし来年も開催されるとしたら参加したいと思いませんか？	【保護者の方へ質問】参加して良かった事を教えてください。	【参加したお子様へ質問】参加して良かった事を教えてください。	その他ご感想、ご要望があれば教えてください。
2023/10/28 12:00:39	はい	楽しく見れた	楽しめた	
2023/10/28 12:01:09	はい	外部の方との練習が刺激になった。	楽しかった	もっとたくさん開催してほしいです。
2023/10/28 12:01:48	はい	沢山練習できたこと	トップ選手と一緒にテニスができたこと	貴重な機会を開催していただきありがとうございました。来年開催される事を楽しみにします
2023/10/28 12:05:07	はい	順番に各コーチに楽しく教えてもらいました	楽しくテニスが出来ました、ありがとうございました	来年も是非お願いします
2023/10/28 12:05:17	はい	普段練習できない岡垣さんやコーチ達とテニスができた事。	教え方がとてもわかりやすかった	また来年もお願いします。
2023/10/28 12:06:08	はい	子供たちが凄く楽しんでいました！見る私も楽しかったです。ありがとうございました。	上手な人のプレイが近くで見れて良かったです	次回も開催してください！
2023/10/28 15:39:50	はい	とても良い刺激になりました。	テニスに対する考え方が学べました。	またの開催を心待ちにしています。
2023/10/28 15:43:24	はい	とても内容が濃く、たくさん練習できて良かったです。	楽しかったです。勉強になりました。	来年もぜひ開催して下さい！参加したいです。
2023/10/28 16:04:30	はい	良いアドバイスをもらえてよかったです。	とてもためになる練習でした。試合など楽しかったです。	

第 2560 地区 2023-24 年度 1 月末 会員数報告

R C	例会数	My Rotary アカウント 登録率	会 員 数			
			2023年 7月1日	1月末 会員数	うち女性	増減
第1分区 (9クラブ)	/	-	378	380	39	2
新発田	3	31.1%	89	88	1	-1
村上	3	20.0%	39	40	9	1
水原	4	27.3%	31	33	1	2
中条	4	100.0%	48	48	3	0
新発田城南	3	23.1%	38	39	5	1
豊栄	3	20.8%	25	24	2	-1
新発田中央	4	4.4%	45	45	5	0
中条胎内	4	52.8%	37	36	7	-1
村上岩船	3	29.6%	26	27	6	1
第2分区 (9クラブ)	/	-	436	453	30	19
新潟	4	32.9%	78	85	3	7
新潟東	3	15.9%	61	63	7	2
新潟南	4	34.5%	114	116	8	2
佐渡	0	80.0%	5	5	0	0
新潟西	3	45.5%	40	44	2	4
佐渡南	4	12.8%	36	39	3	3
新潟北	3	35.1%	37	37	1	0
新潟中央	3	34.8%	22	23	0	1
新潟万代	3	53.7%	43	41	6	0
第3分区 (5クラブ)	/	-	91	94	5	3
新津	4	20.0%	15	15	1	0
村松	4	42.9%	12	14	0	2
白根	4	27.3%	32	33	1	1
新津中央	4	38.5%	26	26	3	0
阿賀野川ライン	3	0.0%	6	6	0	0
第4分区 (11クラブ)	/	-	364	365	31	1
三条	4	9.1%	53	55	0	2
燕	3	7.5%	39	40	3	1
加茂	3	6.9%	29	29	4	0
三条南	3	20.0%	42	40	3	-2
分水	4	68.8%	31	32	4	1
見附	3	5.0%	20	20	1	0
吉田	3	4.0%	28	25	3	-3
三条北	4	11.1%	52	54	3	2
巻	3	7.1%	27	28	4	1
田上あじさい	4	16.7%	6	6	2	0
三条東	3	19.4%	37	36	4	-1

R C	例会数	My Rotary アカウント 登録率	会 員 数			
			2023年 7月1日	1月末 会員数	うち女性	増減
第5分区 (7クラブ)	/	-	287	306	30	19
長岡	4	67.3%	46	49	4	3
柏崎	4	2.1%	42	48	0	6
長岡東	3	24.6%	54	61	9	7
柏崎東	3	19.5%	40	41	2	1
栃尾	3	13.6%	21	22	1	1
長岡西	3	18.0%	48	50	3	2
柏崎中央	3	25.7%	36	35	11	-1
第6分区 (6クラブ)	/	-	125	121	8	-4
十日町	3	30.0%	31	30	3	-1
小千谷	3	13.8%	31	29	2	-2
雪国魚沼	4	15.4%	26	26	3	0
十日町北	3	0.0%	15	14	0	-1
津南	3	28.6%	14	14	0	0
越後魚沼	4	12.5%	8	8	0	0
第7分区 (7クラブ)	/	-	309	305	20	-4
高田	3	33.3%	68	69	4	1
直江津	4	36.1%	72	72	6	0
新井妙高	3	12.1%	32	33	1	1
糸魚川	3	95.2%	43	42	3	-1
高田東	3	61.8%	36	34	2	-2
糸魚川中央	3	53.8%	25	26	0	1
越後春日山	3	82.8%	33	29	4	-4

クラブ数	54 クラブ
7月1日会員数	1,990 人
1月末会員数	2,024 人
女性会員数	163 人
純増減会員数	34 人
My Rotaryアカウント登録率	29.7 %

※ 12 月末会員数の訂正
 越後春日山 RC 30 人 (うち女性 4 人) ⇒ 29 人 (うち女性 4 人)
 第 2560 地区 2,024 人 (うち女性 164 人) ⇒ 2,023 人 (うち女性 164 人)

地区主要行事予定

2024年2月27日現在

年	月	日	行 事	会 場
水と衛生月間				
2024年 (R6) 米山年度	3月	2	(土) 米山記念奨学生終了式・歓送会	ホテルイタリア軒
		2	(土) ローターアクト地区大会	ミライエ長岡、ホテルニューオータニ長岡
		3~4	(日~月) スキー国際交流研修	妙高杉ノ原スキー場
		9	(土) 南雲年度 クラブ会長エレクト研修セミナー (PETS)	長岡グランドホテル
		10	(日) 第2回全国RYLA運営委員会及び地区RYLA委員長会議	AP八重洲 / ZOOM
		13	(水) 第3回ガバナー会議	オンライン
		23~24	(土~日) 全国ローターアクト研修会山形会議	山形県
		23	(土) 南雲年度防滅災セミナー	長岡市
	30	(土) 米山カウンセラー研修会	ANAクラウンプラザホテル新潟	
環境月間				
4月	6	(土) ローターリー財団奨学生選考会	地区事務所	
	18~19	(木~金) クラブ活性化セミナー 2024	JPタワー ホール&カンファレンス	
	19	(金) 第4回ガバナー会議	JPタワー ホール&カンファレンス	
	19	(金) ガバナーノミニ・デジグネートセミナー	JPタワー ホール&カンファレンス	
	20	(土) 米山記念奨学生オリエンテーション・歓迎会	ANAクラウンプラザホテル新潟	
	20	(土) 中条胎内RC創立30周年記念式典	中条グランドホテル	
	27	(土) 第3回派遣学生オリエンテーション	三条商工会議所会館	
	未定		田上あじさいRC創立30周年記念式典	未定

【新入会員】

(敬称略)

RC	氏名	入会日	会社名	役職	職業分類
佐渡南	高橋 正行	2024.01.09	(株)高橋産業	代表取締役	農業
新潟東	羽賀 浩	2024.01.12	スペック(株)	代表取締役社長	システム開発
新潟東	石本 靖朗	2024.01.12	大和証券(株)新潟支店	支店長	証券業
三条南	広岡 頼子	2024.01.15	(株)松木屋	代表取締役	日本料理
新潟西	田中 祐一	2024.01.18	スタジオネ(株)	代表取締役	飲食業
巻	荒井 聡	2024.02.01	UDトラックス新潟(株) 三条支店	支店長	車両販売
中条胎内	寛 智也	2024.02.02	寛創庭園		造園業
中条胎内	水戸部 直子	2024.02.02	(株)ビーロード	代表取締役	美容
中条胎内	丹後 敏子	2024.02.02	—		スポーツ・舞踊指導員
新井妙高	松田 穰	2024.02.07	松田屋	代表	呉服販売

【訃報】 ご冥福をお祈り申し上げます。

(敬称略)

RC	氏名	逝去日	会社名	役職	職業分類	経歴・その他
新潟南	斎藤 秀明	2024.01.18	(株)サイタメ	代表取締役社長	農業資材販売	
村上	船山 由喜男	2024.02.06	(株)会津屋	代表取締役会長	葬儀業	



第1地域 ロータリーコーディネーター補佐 中野 正美 (太田 RC)

今年度ガバナーエレクトの皆様はオランダに行くことが叶い、アーチック会長エレクトのテーマ「ロータリーのマジック」を直接聴くことが出来たことは喜ばしく、また大変羨ましく思います。より深く心に染み渡ったことでしょう。私は2022-2023年度、ジェニファー・ジョーンズ RI 会長年度の地区ガバナーを務めさせていただきました。私の同期ガバナーは皆さんオランダでの国際協議会に行くことが出来ませんでした。新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で国際協議会を開催予定直前の2021年12月になり RI によりバーチャルのみで実施する方針が決定されたためでした。

アーチック会長エレクトはスピーチの中で「ポリオ根絶」と「平和の構築」はロータリーの最優先事項ですと述べています。そしてポリオ根絶に欠かせないのがパキスタン全土でワクチン接種に携わっているヘルスワーカーの女性たちだと述べられ、パキスタンを訪問して彼女らに会うことにしているそうです。ポリオプラス・ソサイエティの促進も目標に挙げられていました。

もう一つの最優先事項の、平和の構築のためにロータリー会長平和会議「分断された世界を癒す」を催すと話されています。ジェニファー・ジョーンズ元 RI 会長がエレクトの時のスピーチ、zoom での国際協議会で話したエピソードがまさにロータリー平和フェローの素晴らしいインパクトでした。それはハンブルグのロータリアンから当時のジョーンズ会長エレクトに助けを求める依頼の電話があったそうです。アフガニスタンのカブールで平和活動をしている若い女子学生が、タリバン政権で危険にさらされている、何とかして避難する飛行機に乗せてあげることができないかというものでした。当時のジョーンズ会長エレクトは元ロータリー平和フェローのことを思い出し、連絡が取れて、1日もたたないうちに避難者リストに加えられて、2日後の空港封鎖直前にヨーロッパ行きの飛行機に乗ることができた。これぞ magic of Rotary だと言っていました。

日本の場合、国際基督教大学のロータリー平和フェローセンターを支える資金は財団から大学に研究などに対する資金は支給されていますが、いろいろな施設見学など見聞を広めるための活動に対する支援額が十分とは言えないというお話(換算するとロータリアン一人あたり年間15円の負担とのこと)を伺って、アーチック会長エレクトの平和の構築の一環として、我が国のロータリー会員は国際基督教大学の平和フェローセンターへの支援を更に強化できればと考えます。



第1地域 ロータリー公共イメージコーディネーター補佐 石黒 秀司(郡山 RC)

2019-20 年度当 2530 地区公共イメージ・IT 委員会が 2,000 人規模で行ったアンケートから興味ある設問・回答をご紹介します。

■公式ロゴ 見たことがありますか？ ..あるが、16%。(ほんとか??..愕然!!)

■「ロータリークラブ」または「ロータリー」という団体について、見たり聞いたりしたことはありますか? ..あるが、55%。委員会コメント「公式ロゴ認知度に反し意外に多い印象」「40 歳代が分岐点。40 歳代が 52%、50 歳代が 66%、60 歳代が 80%、70 歳代が 80%。しかし、20、30 歳代は、30%程度。男女比では、男性の割合が高い」

■「ロータリークラブ」または「ロータリー」はどんな活動をしている団体だと思いますか？

全く知らない-32%、地域の社会奉仕ボランティア活動-17%、会員同士の親睦・交流-14%

会員の職業をとおした地域貢献-12%。・委員会コメント「知っている方の中でも青少年育成活動(4%)と疾病予防根絶活動(1%)の認知度が低い」(えっ、ポリオ根絶が1%??)

では、愕然のアンケート結果を受け、公共イメージ向上戦略をどう取ってきたのか? 残念ながら地区もクラブも個人も積極的な動きは、なかったと反省の極み!!!!

新公式ロゴに変わったのが 10 年以上も前。どうでしょう。周りをつけているのは、極々一部の方のみです。まずは、公式ロゴバッジをつけましょう。そして、積極的に他の会員に公式ロゴバッジをつけるよう猛烈アピールしましょう。さらに、いつもつけるようにと。

ロータリー所属の喜びと矜持をもって、バッジをいつもつけていたことが、読み取れる先輩のエッセイを目にします。例えば、「伊達にはつけぬ襟のバッジ」(大阪 RC 村田省蔵氏)「バッジは見ている」(福島南 RC 佐藤侁氏)など。「バッジをつけている以上、自己を律し、ロータリアンらしからぬ行動はとれない。」「自己成長の意識をもって、例会等に参加し、多くの会員と意見交換を行い、他の良質なロータリアンの良い部分を学び、自己に取り入れ、立派な人間になる。」..「いつもバッジ着用」の上で「立派な人間への成長と誇りあるロータリアンの諸々の行動」これが公共イメージ向上の必要条件です。「あんな立派な方がロータリアンなら、私も入りたい」「あのような方と話したい」コツコツ音が出る位の個々のいつもの行動が、公共イメージ向上につながります。やるのか。やらないのか。ロータリーの未来は、私たちの手中にあり、澎湃のごとく大きなうねりになるかもしれません。



補助金について



第1地域 ロータリー財団地域コーディネーター補佐 中川 高志 (大宮 RC)

2013年4月未来の夢計画が承認され、補助金のプロセスはシンプルとなり、管理運営と意思決定は地区にゆだねられるようになりました。その結果補助金の管理運営費の削減と持続可能性を最大限に生かすことにより寄付を有効に活用できるようになりました(資金の88%は補助金プログラム運営に費やされています)。そして現在、ポリオプラスとロータリー平和センターを除く人道的および教育的プログラムは地区補助金、グローバル補助金の2種類に統合されています。この未来の夢計画の資金モデルは「エジソン賞」(優れた新商品、サービス、マーケティングなどに贈られる権威のある賞)を受賞しています。そしてロータリー財団はチャリティーナビゲーターによる慈善団体への最高評価を毎年受賞しています。

ご存じのように、地元や海外でのプロジェクトに活用できるDDFとして50%が配分されます。さらにその50%までが地区補助金として「財団の使命に沿う」という条件を満たせば地区の裁量で自由に使うことができます。2770地区では全クラブに小口で配分するとともに5000~10,000ドルの大口枠を公募しています。地域の文化に即した奉仕活動に活用しています。また、大口枠はグローバル補助金プロジェクトの前段階的な意味合いも考慮して運用しています。

測定可能・持続可能な成果のあるプロジェクトをより多く推進するため、7つの重点分野(基本的教育と識字率向上、地域社会の経済発展、疾病予防と治療、母子の健康、平和構築と紛争予防、水と衛生、環境)に絞った補助金がグローバル補助金です。未来の夢計画以前は測定・持続可能な成果に乏しい小さなプロジェクトが80%に及んでいましたが徐々に成果は上がり2022-23年度では世界で1092件5,500万ドルもの授与額になっています。日本では80件154万ドルの承認です。2770地区では通算47件で比較的活発にグローバルプロジェクトを推進しています。クラブ単独でプロジェクトに取り組むには少し難易度は高めですが、地区財団委員会、日本事務局は支援を惜しみません。わたくし自身も2015-16(井原)年度財団部門委員長として、セブでVTT(GG1637229 Ultrasonic Diagnostic Device For Early Detection)をしてきました。計画段階から苦勞の連続でしたが実りある心に残るプロジェクトだったと思っています。

ぜひ皆様のクラブでもチャレンジしてください。



～情熱と可能性に出会う場所～ シンガポール国際大会に参加しましょう



第1地域 シンガポール国際大会推進委員 久木 佐知子 (旭川西 RC)

ロータリーの国際大会は新たな発見をする絶好の機会といわれています。今年の大会はシンガポールで開かれます。世界中のロータリアンやローターアクトが一堂に会し、友情を深め、知識を学びながら、わくわくするような一流のエンターテインメントも楽しむことができます。

私ももちろん参加する予定です。開会式や本会議のほかに注目しているのは「環境」や「平和」の分科会です。

斬新なアイデアとテクノロジーで緑化推進に取り組み、平和の理念や多様性が息づくシンガポールで、専門家の講演や世界の会員の声を聞いてみたいと思います。会場ではインターネットのアプリを使ってスマートフォンで同時通訳を聞くことができます(イヤホンをご用意ください)。また、期間中はバスや MRT など公共交通機関が無料で利用できます。

世界のロータリアンとの交流も楽しみのひとつです。友愛の家の売店ではロータリー関連グッズが購入できます。一昨年のヒューストン大会では年度のテーマがプリントされた生地を購入しました。帰国後に蝶ネクタイやポーチに仕立て、蝶ネクタイは同期ガバナーの皆さんにプレゼントし、ロータリーイベントの際にはお揃いで着用してくれました。ポーチは女性会員に贈り、のちにジェニファー・ジョーンズ RI 会長にもお渡しすることができました。国際大会の思い出のひとつです。

昨年のメルボルン大会には、私の所属する2500地区からローターアクトクラブの地区代表が参加しました。彼にとって初の海外旅行がロータリーの国際大会で、スタジアムでの開会式や地区ナイトでの体験は一生忘れられない思い出になったことでしょう。

国際大会に家族や友人を誘って参加するのもお勧めです。会場のマリーナベイ・サンズ・エキスポ&コンベンションセンターの周辺には観光スポットがたくさんあります。

多くの皆さんと現地でお会いできるのを楽しみにしています。



1. 帰宅困難な男性を保護した米山学友に感謝状

秋田県内の80代男性を保護したとして、1月18日、秋田臨港署からバングラデシュ出身の米山学友であるカビール・ムハムドゥルさん（1998-2000/秋田北RC）へ感謝状が贈られました。

この日から遡ること約1カ月前、秋田市内を運転していたカビールさんは、雪の積もる歩道を歩



感謝状を受け取るカビールさん(右)

く薄着の男性が両手に買い物袋を持ったまま、うずくまるようにしている姿を発見したそうです。すぐに車を止め、「おじいさん、大丈夫ですか。自宅はわかりますか。困っているなら家まで送りますよ」と声をかけ、保護。しかし、自

宅の住所を言えない状態だった男性のことを考え、数十分運転して最寄りの秋田臨港署まで連れて行きました。男性はその後、無事に家族と連絡が取れたそうです。

見知らぬ人に声を掛けるだけでも勇気が必要ですが、自らの車で警察署まで送り

届けたカビールさんは今回の件について、「自分の行動によって男性の方が無事に帰宅できて、とても安堵しています。困っている人がいれば皆で協力し合い、より良い社会を目指せたらと思います」と述べました。

2. 米山学友から能登半島地震へ多額の義援金

2024年1月1日に発生した能登半島地震に対し、多くの米山学友から義援金が届いています。

1975年以前に日本へ留学していた米山学友を含むベトナム人グループの方々からは、合計1,907,841円という高額の義援金を送金いただきました。

義援金の募集に際し、米国在住のグエン・アン・トンさん（1973-74/姫路RC・1974-75/甲府北RC）のグループと、日本在住のファン・マン・カーさん（1974/仙台北RC）の2つのグループが取りまとめに動いてくださいました。

グエン・アン・トンさんからは、「米山学友を含むベトナムの元留学生たちの心がこもった義援金です。日本へ留学した経験を持つ私たちは、それぞれ異なるバックグラウンドを持ちますが、今回起きた地震で被災した方々を支援するために一致団結しています。私たちの思いは、被災した方々の生活を少しでも楽にし、復興への道のりを支援できると信じています。能登半島、

頑張れ!!」という、力強いメッセージも届いています。

台湾米山学友会からは、地震発生後まもなくして支援の申し出があり、理事長の林志昇^{リンシシジョウ}さん（1992-94/津RC）と、幹事長の張逸崑^{ジャンイクケン}さん（1997-98/杵築RC）が中心となり、学友に呼びかけを行いました。張さんの「真冬の地震発生に、過去の台湾での地震を思い出し、いともたってもいられませんでした。今回のような能登半島の大きな被害に対し、義援金を送ることしかできないことがとてももどかしいです。被災された方々が一日でも早く元の生活に戻れることを願っています」という温かいメッセージとともに、同学友会から義援金として100万円が届きました。

お預かりした義援金は、当会からまとめて被災した地区へ送金する予定です。学友の皆さんの思いに改めて感謝申し上げます。

3. 寄付金速報 — 2024 年は緩やかにスタート —

前年同期比

+ 3.0%

普 - 1.3% 特 + 5.1%

1 月末までの寄付金は前年同期と比べて 3.0% 増（普通寄付金:1.3%減、特別寄付金:5.1%増）、約 3,200 万円の増加となりました。

クラブ会員の皆さまに厚く御礼申し上げます。例年 1 月は、普通寄付金（クラブで決定した金額×会員数分をお送りいただく定期寄付）の下期分の納入が主となります。2 月も引き続き、皆さまのご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

4. 「再会 in 関東」フルバージョン 動画公開

米山記念奨学会では、公式 YouTube チャンネルにて、当事業に関する動画を随時公開しています。今回新たに、昨年 8 月に開催された米山学友による世界大会「再会 in 関東」のフルバージョン（約 21 分）を公開しました。過去最大の 1,000 人以上がつくばに集結した模様に密着しています。大いに盛り上がった 4 年ぶりの世界大会の様子を、ぜひご覧ください。ご希望があれば、動画ファイルをお送りすることも可能です。広報担当までご連絡ください。



5. 能登半島地震を経験した奨学生

第 2610 地区の現役奨学生である張若愚^{チョウワクグ}さん（2023-24/金沢東 RC）は、中国語の発音から「タコちゃん」という愛称で呼ばれており、実家から持参したプーアル茶を振舞ったり、母国の文化について



クラブ例会で卓話する張さん

伝えたりと、クラブの方々との良い関係を築いているそうです。

そんな張さんは、1 月 1 日の能登半島地震で非常に大きな揺れに遭遇。母国を離れ日本で経験する大地震にも関わらず、落ち着いていました。というのも、張さんが大きな地震に見舞われるのはこれが 3 度目。2008 年、2013 年に故郷・四川省での大地震を経験していました。特に、初めての地震は人生で最も衝撃的で、自分も周りもパニック状態の中、自らの身を守ること必死だったそうです。能登地方で地震が発

生した直後、これまでの経験を生かし安全の確保、電波の確認などを速やかに行いつつ、津波に備えるため山側へ避難したそうです。

母国と日本での経験を比較してみると、日本の建物の方が揺れは大

きいが倒れにくい、防災教育が浸透している、津波への備えがあることを感じたそうです。

来日して初めて地震を経験する奨学生や学友たちに向けては、「油断や焦りは禁物です。余震・土砂崩れ・火災などの二次災害には特に気を付けてください。心理状態を安定させるために、マイナスな情報ばかりを得ないようにすることも、自分を守るために大切です。もし女性一人で避難する状態であれば、身の安全の確保には細心の注意を払ってほしいです」と、これまでの経験を基にアドバイスを送りました。